

令和4年度 上田市立丸子北中学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
①自ら考え、進んで学習する生徒 (自主) ②思いやりのある、心豊かな生徒 (友愛) ③明るく健康で、粘り強い生徒 (鍛錬)	夢の実現に向け、学び続ける生徒
	今年度の重点目標 「安心して学べる授業・安心して語れる教室に」
	○自分の言葉で語る生徒の育成(主体的・対話的で深い学び、言葉で繋がる関係)
	○自己有用感を高める言葉がけ
	○将来の願いや夢を育む活動
○中学生らしくけじめある健やかな生活	

総合評価					
成果	A	B	C	D	課題・改善策
生徒アンケート、保護者アンケートから、授業改善についての評価が(若干ではあるが)向上しており、大変うれしく感じている。今後も、授業改善を確実な流れにしていきたい。					
・全体的に学校の雰囲気はとても落ち着いており、生徒たちも明るくのびのびとしている。今後は、個々の学びや個々の成長にも目を向け、一人一人の能力や特性が伸びるような方向も探していきたい。					
・人権尊重の学校づくりについては、アンケートはおおむね肯定的な評価であったが、人権尊重にかかわる部分は、最後の一人が安心できるまで、満足することなく、学校づくりに励んでいかなければならない。					
・児童、保護者、学校関係者、教職員のそれぞれの評価が連動しているかを検証し、一致するよう努力する必要がある。					
生徒たちが、自分の考えを自由に語り合う雰囲気の中で学び合う授業づくりをスタートさせることができた。	○				学んだことを自分の言葉で説明するなど、自己の学びを意識できる振り返りを行う。
学校関係者の授業参観では、生徒たちの生き生きとした様子を見ていただけた。		○			長期欠席生に対する言葉がけや対応があたかなものになっているかを検証する。
丸子地域で受け入れていただく職場体験を実施できた。		○			生徒たちが受け身の傾向が見られた。学習の意義をしっかりと説明する。
挨拶、服装、無言清掃など、丸子北中の良い点に触れていただけたことが増えた。	○				全体的な指導ばかりでなく、個々の個性や思いに寄り添った対応を模索する。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	個に応じた授業	生徒の実態、学級の実態を把握し、授業方法の改善に努めているか
		めりはりのある授業	教材の工夫、学び合いの場の設定など、わかりやすい授業づくりに努めているか
		授業の見とどけ	振り返りの場面を設定し、学力の定着や見とどけを丁寧に行なっているか
	生徒指導	カウンセリングマインドに基づく生徒指導	生徒相互の良さを認め合う活動や温かい言動が取れる教育を実践しているか
		職員の共通理解とシステムで指導できる体制	教育相談や進路相談を含め、生徒の思いをくみ取る活動がなされ家庭と連携して指導しているか
	教育課程	道徳授業・人権教育	実践と評価を繰り返し指導し、いじめの防止・早期発見・指導ができたか
キャリア教育		生徒が目標をもてるキャリア教育が進められているか	
学校運営	地域との連携	地域に開かれた学校	地域の方が喜んで来校する「丸子コスモス大学」「北中CS」の運営の工夫ができたか
		PTA活動	地域の実態や思いを理解し、集会や作業へ生徒が意欲的に参加できるように働きかけたか
	研修	職員研修	担当部はPTAと協力して意義ある活動ができたか
			研修で学んだことを生徒に還元できたか

成果	A	B	C	D	課題・改善策
ICT機器を活用した話し合い活動など、黒板とノートにこだわらない学習を意識した。	○				教科によっても教師によっても利用に差が出ている。効果的な活用も研究課題である。
オンライン学習などの学習形態の多様化のほか、プレゼンテーションにも力を入れた。	○				めまぐるしく変化する学習形態に混乱する生徒もおり、授業のUD化をさらに推進する。
「ねらい」「まとめ」が位置付いた授業を積み重ね、自己の学びを自覚できるようにした。		○			教師がねらう見とどけと、生徒の学びが一致しているか、さらに実践を積み重ねる。
学校関係者会議では生徒たちの言葉のあたたかさ、雰囲気などを評価していただけた。		○			人間関係にまずきを覚える生徒もいることを忘れず、心に寄り添う支援を心がける。
年2回、担任と生徒が直接話す個別相談を実施した。「アセス」も実施した。	○				「アセス」を活かした学級経営などの具体的な研修を行っていく。
教職員の働き方改革と相まって、情報が共有される職員組織が整ってきた。		○			全ての係が機能的に動いているとは言えず、具体的な洗い出しを行う。
生徒、保護者アンケートの評価は、前期から後期にかけて、肯定的な評価が高まった。		○			アンケートは、否定的回答がゼロではない。少しでも少なくなるよう努力する。
丸子地域で行った職場体験学習など、地域に根ざしたキャリア教育を行った。		○			地域の農工商業者とつながり、地域の歴史を学ぶ学習などを取り入れていく。
「丸子コスモス大学」を、2年ぶりに開催することができた。	○				学んだことをプレゼンテーションするなど、生徒たちが受け身にならないようにする。
信州型CS運営委員・サポーター会議を、2年ぶりに実施することができた。		○			生徒と地域の方が一堂に会して北中を語り合う場を設定したい。
コロナ禍にあって、活動が限られたが、少しずつ復活する活動が出てきた。		○			来年度の70周年事業に向けて、計画の具体化を進めている。
東信教育事務所指導主事、白馬村教委から講師をお招きした授業づくり研修等。		○			「ねらい」「まとめ」がある授業、協働的な学びを意識した授業の研究を続ける。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった